



TOPIC 4

市民公益活動に役立つICT講座 「オンラインツールの使い方」を開催しました

6月19日(日)、梅雨の晴れ間の暑い午後、市民公益活動に役立つICT講座「オンラインツール(ZOOM-LINE)の使い方」を門真市立市民公益活動支援センターセミナー室にて開催しました。

講師は、マチ門(かど)NETの代表難波友範(なんば・ともり)さんです。難波さんが作成した資料を基に、丁寧な語り口調で、初心者にも優しくわかりやすく「インストールから実際に使うワンツーマンの指導・便利機能のレクチャーをしていただきました。



今回の講師
マチ門NETの
難波友範さん



Zoomの
ミーティングを
実際に体験
してみました

LINEとZoomの特性も
教えていただきました



特に、Zoomに関しては、まだわかっていないことや慣れていないこともあると思います。

そのような慣れていない・使うのが怖いとかわからないという方に対して「いろは」から教えていただける講座だったと思います。

また、慣れ親しんだLINEの新しい使い方・便利な使い方など、さらに楽しく便利になる機能を受講者の方に丁寧に教えていただきました。このような、新しい学びに関して、不安などあると思いますが、繰り返し学ぶことも大事だと思いました。

参加者の方も、満足していただける講座になっていたようで、アンケートでも「LINE・Zoomの使い方を教えてもらってよかった」「また、講座があったら参加させて頂きたい」という回答を得ることができました。

参加いただきましたみなさま、誠にありがとうございました。

今後も、このような新しいコミュニケーションの仕方等をご紹介して市民活動に役立てていく講座がありますので、学びたいという方のご参加をお待ちしております。

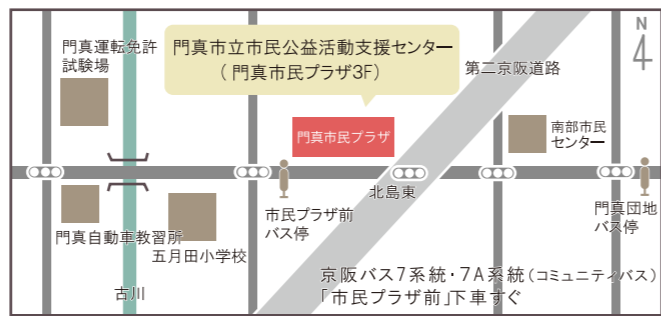
市民公益活動支援センターは、「非営利」かつ「不特定多数の利益」となる、市民公益活動をサポートしています。

門真市立市民公益活動支援センター (指定管理者) 特定非営利活動法人 大阪NPOセンター

住所：〒571-0025 門真市大字北島546番地
門真市民プラザ3階
TEL：072-800-7431
FAX：072-800-7432
メール：ko-eki-c@aqua.ocn.ne.jp
開館時間：9:00～21:30
休館日：毎週木曜、年末年始(12/29～1/3)
ホームページ：www.kadoma-koeki-cnt.com



※警報などの発令により、開館状況が変更となる場合がありますので、詳しくはホームページをご確認ください。



Access

- ・京阪バス7系統・7A系統(コミュニティバス)「市民プラザ前」下車すぐ
- ・京阪本線「古川橋」駅(北口)からバスで約15分
- ・地下鉄長堀鶴見緑地線「門真南」駅からバスで約16分

公益times

~PUBLIC INTEREST TIMES~



門真市立市民公益活動支援センター

TOPIC 1

「門真市ボランティアフェスティバル」に参加しました

6月5日、門真市立リサイクルプラザ エコ・パークで行われた第17回「門真市ボランティアフェスティバル」に参加しました。今回のテーマは「広めよう 人の和 地域の輪 ~ Come Back! Community Action!」です。

1階は、キッチンカーでから揚げなどが販売され、4階・5階では、ボランティア・市民活動団体による作品展示・販売・飲食ブースなど内容盛りだくさんでステージ発表では、たくさんの拍手で賑わっていました。

市民公益活動支援センターの啓発ブースは、「スタンプラリーのチェックポイント」として参加しました。スタンプラリー台紙を片手にたくさんの方々が立ち寄ってくださいました。これをきっかけに、市民公益活動支援センターのことを市民の皆さんに知っていただくことができたのではと感じました。

みなさんをお迎えする看板は
ペットボトルのキャップで
文字を書いています



階段を使って
いただけるように
飾りつけをしました。

いきいきとしたみなさんの活動を拝見し、またいろいろな方とふれあうことができ、とても有意義な一日でした。今後もいろいろなイベントのあるところに出向く予定です。



TOPIC 2

門真の井戸端会議
～いろんなセクターがつながる～

開催日： 2022年6月15日

話題提供者：門真市民プラザ(指定管理者 NPO法人トイボックス)
実島 直美さん

「井戸端会議」の狙いは、「ひと・もの・かね・情報」などの資源を、多様なセクター(企業・NPO・行政・教育機関)などが共有(知恵を結集)することで、それぞれのセクターの「強み」を活かし、かつ、「弱み」を補い合うつながりをつくること。そのつながりを基に市民公益活動を広げ、門真のまちづくりを実践していくことです。

①活動の背景(自己紹介)

約15年前から、「わくわくキッズ実行委員会」など、子ども向けのボランティア活動を実践。門真市の社会教育施設で「社会教育主事」として働きながら、「社会教育施設と企業との生涯学習に関わる連携」の研究もおこなっています。すべては「笑顔」のために!



②活動を通じての気づき(声)

- ◆門真で仕事させてもらって、地元貢献したい。
- ◆蓮根、クワイだけじゃないよ。市民が誇れる魅力を発信したい。
- ◆活動している団体について知ってもらえる場があれば、互いの活動推進につながるよね。
- ◆地域活動が盛んだけど、情報が拡散していてもったいないね。

③2030年に門真がどうあるべきか?

門真を笑顔あふれる輝く「まち」に!

④～「門真ローカルラボ(プラットフォーム)」の実践～

◆ポイント:

- ・持続可能な活動であること。
- ・産学官民の強みを活かした、協働でのまちづくりをコーディネートする。
- ・門真を知ることで学びのきっかけに。学びから地域課題の気づきに。
- ・協働することで地域住民の誇りに。
- ・地域を意識し地域住民が、自ら「まち」をつくる。



⑤話題提供を踏まえ、以下のような熱い議論が交わされました。

- ◆良い意味で、「ずうずうしさ」や「おせっかい」を通じて、「住人」から「市民」になっていくのかもしれない。
- ◆思い(想い)が大切。約12万人の門真市民にどう伝えるのか。
- ◆年齢が離れていると、なかなかつながりにくい。
Jointの重要性。
- ◆約2年前のコロナで活動がストップしてしまった。リスタートには大きなパワーが必要になる。

◆「ふるさと」という視点が大切だと思う。

- ・ふるさとをつくる
- ・ふるさとに帰ってくる
- ・ふるさとという居場所

◆産学官民が、コミュニケーションをとることは、まちづくりにおいて大切なことだと思う。

- ◆まちづくりの方法論は決まっていて、「地域が稼ぐ」「コミュニティ(人のつながり)を構築」。これをやるか、やらないかだけ。しかし、具体化が難しい(方法・役割など)。多様なセクターが、共感?共汗?響感?し、本音を語ること。

◆「経世済民(けいせいさいさいみん)」という言葉(略して「経済」)は、「世を経(おさめ)民を済(すく)う」という意味なので、政治要素も含み、人のため・まちのために活動することにつながるのではないだろうか。



「門真の井戸端会議 ～いろんなセクターがつながる～」では、多様なスキルを持っている市民がつながることで、ソフト面(社会関係資本:ソーシャル・キャピタル)を活かした、小さなまちづくりを実践していきます。

TOPIC 3

「環境学習 ～染め体験～」のお手伝い



5・6月は、門真市内の小学4年生の社会見学で、クリーンセンターとリサイクルプラザで「環境学習」が行われています。環境学習は、午前中、環境政策課の職員さんの案内で、クリーンセンターの施設見学をして、午後は、リサイクルプラザへ移動し、「リサイクル工房 布くらふと」のみなさんを講師に迎え、玉ねぎの皮を使った「染め体験」をしました。今年度は、市民公益活動支援センターの職員が、「染め体験」の協力をしました。

市民公益活動支援センターの職員は、子ども達が、白いハンカチを玉ねぎの皮を使って染めている間、子ども達に「4R(リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ)」について考えるお話しをしました。小学生に伝えるようにお話しするのは、言葉の選択など、結構難しかったですが、子ども達の笑顔や、「楽しかった」「ありがとう」などのお礼の言葉をもらい嬉しかったです。

